

ID No.	233
研究課題名	造血器腫瘍発症に関わる遺伝子発現制御因子異常の解明
研究代表者	原田 浩徳 （順天堂大学・准教授）
研究組織 受入教員 研究分担者	北村 俊雄 （東京大学医科学研究所・教授） 原田 結花 （順天堂大学・助教） 北浦 次郎 （東京大学医科学研究所・助教）
研究報告書	
造血器腫瘍における遺伝子異常を同定し、その発症機序の解明を行っている。本年度は、かねてより検討していたRUNX1変異とBMI1過剰発現との協調作用による骨髓異形成症候群（MDS）発症機序を解明し、成果を発表した。さらに、先天的にGATA2変異を有する Emberger症候群から発症したMDS症例から、MDS移行の責任遺伝子として3種類の遺伝子変異を同定した。そこで、GATA2変異とこれらの遺伝子変異によるMDS発症機序を明らかにするため、マウス造血幹細胞にGATA2変異と協調する変異を共に導入し、モデルマウスの作製に着手した。	